

血液内科 Hematology

1. スタッフ構成

- 名和 由一郎(臨床研修センター長、改善推進本部長、がん治療センター副センター長、輸血部長)
1992年島根医科大学医学部卒
専門分野:血液全般、造血幹細胞移植、急性白血病、多発性骨髄腫
資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本血液学会血液専門医・指導医・評議員、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医・評議員、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本輸血・細胞治療学会認定医・細胞治療認定管理師、ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター、厚生労働省臨床研修指導医
- 中瀬 浩一(主任部長、働き方改革推進室長補佐、改善推進室長補佐)
1996年岡山大学医学部卒
専門分野:血液全般、造血幹細胞移植、成人T細胞性白血病、感染症、栄養管理
資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本血液学会血液専門医・指導医、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医・評議員、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本化学療法学会抗菌化学療法認定医、ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター、厚生労働省臨床研修指導医
- 森 正和(部長)
2003年高知医科大学医学部卒
専門分野:血液全般、リンパ系腫瘍
資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本血液学会血液専門医、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医、日本医師会認定産業医、厚生労働省臨床研修指導医
- 佐伯 恭昌(部長)
2008年岡山大学医学部卒
専門分野:血液全般
資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本血液学会血液専門医、厚生労働省臨床研修指導医
- 板楠 今日子(医長)
2009年筑波大学医学専門学群卒
専門分野:血液全般
資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本血液学会血液専門医、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医、日本輸血・細胞治療学会認定医、厚生労働省臨床研修指導医
- 橋田 里妙(医長)
2010年高知大学医学部卒
専門分野:血液全般
資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本血液学

会血液専門医、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医、厚生労働省臨床研修指導医

- 上田 怜(医長)
2013年愛媛大学医学部卒
専門分野:血液全般、感染症
資格:日本内科学会認定内科医、日本血液学会血液専門医、ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター、厚生労働省臨床研修指導医
- 後藤 有基(医長)
2015年金沢大学医学部卒
専門分野:血液全般、栄養管理
資格:日本内科学会認定内科医、日本血液学会血液専門医、厚生労働省臨床研修指導医
- 肥山 隆一郎(内科専門研修プログラム専攻医)
2019年大分大学医学部卒
専門分野:血液全般
- 森 悠記(専攻医)
2020年島根大学医学部卒
専門分野:血液全般

2. 実績

当科では、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、白血病などの患者さんに、安全で満足度の高い化学療法を行っています。初回化学療法は入院で行いますが、入院病床数の制約もあるため、以後は可能な限り外来化学療法に移行するようにしています。そのため、診療科別外来稼働額では当科が院内1位となっています。昨今の病院全体での化学療法の件数増加、それによる化学療法室の慢性的なベッド不足もあり、外来化学療法加算の算定ができない皮下注射の化学療法については、2020年2月から中央処置室で当科医師が施行しています。2021年は1,101件、2022年は1,386件と、非常に多くの皮下注射の化学療法を当科医師が行っています。

県内の血液疾患の患者さんは、なるべく地元で治療ができるように、県立南宇和病院には、以前より2か月に1回の診療支援に伺っていましたが、2020年11月からは、県立今治病院へ月2回の診療支援を行っています。治療の必要な患者さんは迅速に中央病院で治療を行い、状態が落ち着いて南宇和や今治でも治療可能となれば、県立南宇和・今治病院で診療を行っていく体制を構築し、東予・南予地区で、患者さんの満足できる質の高い血液診療を提供できるよう心がけています。

■ 疾患別入院患者数

疾患名	2020	2021	2022
急性白血病	102	125	123
うち ALL	20	26	19
骨髄異形成症候群	157	122	105
悪性リンパ腫	290	294	266

多発性骨髄腫	36	36	68
慢性骨髄性白血病	16	27	2
慢性リンパ性白血病	0	6	6
再生不良性貧血	4	1	4
その他	99	81	129
合計	704	692	703

■ 死亡症例数

	2020	2021	2022
症例数	18	18	18
うち剖検数	1	1	0

■ 初診患者数

疾患名	2020	2021	2022
急性白血病	27	20	28
うち ALL	7	4	3
骨髄異形成症候群	46	18	44
悪性リンパ腫	108	89	86
多発性骨髄腫	13	11	20
慢性骨髄性白血病	7	11	10
慢性リンパ性白血病	4	4	4
再生不良性貧血	7	3	4
特発性血小板減少性紫斑病	14	12	17
その他	190	194	180
合計	416	362	393

■ 検査・治療件数

検査・治療名	2020	2021	2022
骨髄穿刺	480	380	480
骨髄生検	228	171	197
血液疾患による輸血療法	26,132	17,107	19,002
赤血球製剤	4,330	3,230	3,470
新鮮凍結血漿	792	822	476
濃厚血小板	20,990	13,050	15,050
自己血	20	5	6
血縁者間骨髄移植	2	1	1
非血縁者間骨髄移植	3	2	1
血縁末梢血細胞移植	3	3	5
非血縁末梢血細胞移植	1	1	0
自家末梢血幹細胞移植	10	4	7
臍帯血移植	13	6	9
うちハプロ移植	1	1	5
移植後外来(件数)	65	68	59
外来化学療法	2,084	2,158	2,362
外来化学療法(点滴)	1,219	1,057	976
外来化学療法(皮下注)	865	1,101	1,386
セカンドオピニオン(紹介数)	0	3	1
骨髄移植ドナー	9	4	2
非血縁	7	3	1
末梢血幹細胞移植ドナー	7	4	4
うち非血縁	2	1	0

3. 2023年度目標

職員が安心して働け、職員満足度の高い職場を目指します。その結果、患者さんに良質な医療が提供できて患者さんの満足度も上がると考えています。具体的な目標は以下の通りです。

(1) 職員の心理的安全性重視と働き方改革

当科のチーム医療においては、職員の心理的安全性を重視します。つまりパワーハラスメントの撲滅です。各自が思ったことを気兼ねなく発言できて、チーム内の意思疎通が十分に行われることで、重複する業務を減らし、職員が安心・納得して働ける職場を目指します。

(2) 患者さんの QOL(生活の質)向上

当科には造血細胞移植を通じて構築した良好なチーム医療の体制があります。チーム医療を生かして、患者さんの QOL を維持・向上することで、当院で治療して良かったと患者さんに言っていただける医療を提供します。具体例として、質の高い栄養療法と理学療法を通じた体力の維持・強化、治療に関わる様々な不安を解消するための多職種での関わりをさらに重視していきます。

(3) EBM 重視と EBM 創出

医療の提供にあたっては、医師のみならず、チームの全員がエビデンス(提供する医療の根拠)を重視して、患者さんおよび医療スタッフが納得できる医療を目指します。また、EBM 創出のため臨床研究を推奨し、日常の業務の中で気が付いた疑問が解決できるような研究に取り組みます。

4. 学術関係

(1) 学会発表および講演

- 森正和、IsaPd が奏功した RRMM 症例. Ehime RRMM Strategy Meeting 講演会. Web 開催 (2022.1.28)
- 名和由一郎. 多発性骨髄腫の最新治療戦略と副作用マネージメント. 愛媛県病院薬剤師会第 473 回南予支部薬学セミナー. Web 開催 (2022.1.29)
- 中瀬浩一. 同種移植後に再発した骨髄線維症の一例. Myelofibrosis Clinical Web Seminar. Web 開催 (2022.2.27)
- 肥山隆一郎. CBT 後の慢性 GVHD 治療中に緩徐に腎機能悪化を来した AML 症例. 第 7 回造血幹細胞移植 web カンファレンス in 四国. Web 開催 (2022.3.3)
- 名和由一郎. 同種末梢血幹細胞採取の実際と課題について. ジーラスタ学術講演会適応追加記念 web セミナー. Web 開催 (2022.3.25)
- 森正和. 日常診療で血液疾患を見逃さない勘どころ. 第 114 回医療連携懇話会. 松山 (2022.5.11)
- 橋田里紗、後藤有基、上田怜、森正和、中瀬浩一、名和由一郎. ハプロ移植後早期に S.commune 感染症を発症した MDS/MPN の一例. 第 44 回日本造血・免疫細胞療法学会. 横浜 (2022.5.12-14)
- 上田怜、肥山隆一郎、後藤有基、橋田里紗、板橋今日子、森正和、中瀬浩一、名和由一郎. Azacitidine+venetoclax で治療を行った治療関連 AML の 1 例. Ehime Leukemia Expert Meeting. 松山 (2022.5.17)
- 中瀬浩一. 髄外腫瘍で再発した多発性骨髄腫. Ehime Hematology Meeting 講演会. Web 開催 (2022.6.17)
- 森正和、後藤有基、上田怜、橋田里紗、中瀬浩一、名和由一郎. 大量化学療法後に再燃した治療抵抗性の髄外腫瘍形成性病変に対して Isa-PD 療法(isatuximab, pomalidomide, dexamethasone)が奏功した多発性骨髄腫. 第 62 回リンパ網内系学会総会. 埼玉 (2022.6.23-25)
- 肥山隆一郎. D-MPB が有効であった t(11;14)を有する再発難治多発性骨髄腫. Ehime Myeloma Forum. Web 開催 (2022.8.5)
- 肥山隆一郎. 背景に膠原病の存在が示唆された Leukemic Phase DLBCL の一例. Ehime Myeloma Forum. Web 開催 (2022.8.5)
- 名和由一郎. 百花繚乱の骨髄腫治療～主治医はどう選択する?～. 愛媛県病院薬剤師会令和 4 年度第 4 回中予支部 web 研修会. Web 開催 (2022.8.17)

14. 森正和. 末梢性 T 細胞リンパ腫の治療戦略. Hematology Webinar Ehime. Web 開催 (2022.8.23)
15. 森正和. 再発・難治性 PTCL に対する治療戦略. PTCL Conference in Ehime. Web 開催 (2022.9.9)
16. 森正和. MCL 治療ディスカッション. IMBRUVICA® Frontier Forum. Web 開催 (2022.10.25)
17. 名和由一郎. ～多職種連携(リハビリ、栄養等)で QOL を落とさない!～ ALL に対する薬物療法と移植療法の新しい展開. 地域がんセンター移植情報交流会 Hematology Web Symposium. Web 開催 (2022.12.1)
18. 永野智浩. Indolent な経過をたどった Hodgkin リンパ腫の一例. 第 32 回中四リンパ腫カンファレンス. Web 開催 (2022.12.3)
19. 名和由一郎. 地方における LTFU の実際と課題. Hokkaido Transplantation Web Conference. Web 開催 (2022.12.8)
20. 橋田里妙、後藤有基、上田怜、佐伯恭昌、森正和、中瀬浩一、名和由一郎. 広範な HLA 抗体を有した急性リンパ性白血病に対する臍帯血移植の一例. 四国 SCT コンソーシアム. 松山 (2022.12.17)

(2) 論文・著書

1. 碓井亨、森正和、板橋今日子、本間義人、後藤有基、上田怜、橋田里妙、宮崎幸大、中瀬浩一、名和由一郎. 同種造血細胞移植後に縦隔気腫合併肺ノカルジア症を発症した 1 例. 愛媛県立病院学会々誌 56 巻. 15-17 (2022.3.31)
2. Kitamura W, Fujii N, Nawa Y, Fujishita K, Sugiura H, Yoshioka T, Fujiwara Y, Usui Y, Fujii K, Fujiwara H, Asada N, Nishimori H, Matsuoka K-I, Maeda Y. Possible prognostic impact of WT1 mRNA expression at day + 30 after haploidentical peripheral blood stem cell transplantation with posttransplant cyclophosphamide for patients with myeloid neoplasm: a multicenter study from the Okayama Hematological Study Group. *Int J Hematol.* 115(4). 515-524 (2022.4)
3. Mizuta S, Ugai T, Kato H, Doki N, Ota S, Kawakita T, Katayama Y, Kurokawa M, Nakamae H, Yano S, Nawa Y, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y, Kako S. Propensity score matching/reweighting analysis comparing autologous and allogeneic stem cell transplantation for B-lineage acute lymphoblastic leukemia. *Int J Hematol.* 116(3). 393-400 (2022.5)
4. Iida H, Imada K, Ueda Y, Kubo K, Yokota A, Ito Y, Kiguchi T, Hata T, Nawa Y, Ikezoe T, Uchida T, Morita Y, Kawashima I, Chiba M, Morimoto K, Hirooka S, Miyazaki Y, Ohno R, Naoe T. Study Group. A phase II randomized study evaluating azacitidine versus conventional care regimens in newly diagnosed elderly Japanese patients with unfavorable acute myeloid leukemia. *Int J Hematol.* 115(5). 694-703 (2022.5)
5. Fujiwara Y, Urata T, Niiya D, Yano T, Nawa Y, Yoshida I, Imai T, Sunami K, Fujii S, Ennishi D, Maeda Y, Hiramatsu Y. Higher incidence of thrombocytopenia during obinutuzumab plus bendamustine therapy for untreated follicular lymphoma: a retrospective analysis by the Okayama Hematology Study Group. *Int J Hematol.* 115(6). 811-815 (2022.6)
6. 江田仁海、渡部伸一朗、小笠原史也、佐伯恭昌、吉田将平、砥谷和人、武内あかり、宮崎詩織、小島研介. 無症候性の急性前骨髄球性白血病における末梢血 WT1 mRNA 測定の有用性. *臨床血液* 63 巻 11 号. 1520-1524 (2022.12)
7. Kambara Y, Asada N, Kondo K, Sumii Y, Fujiwara Y, Seike K, Sando Y, Saeki K, Nishimori H, Fujii K, Fujii N, Matsuoka KI, Maeda Y. Successful haematopoietic progenitor cell collection by plerixafor in combination with reduced dose granulocyte colony-stimulating factor for severe hypoxemia provoked by high-dose granulocyte colony-stimulating factor administration. *Transfus Medicine* 32(6). 527-529 (2022.12)